



令和4年度町立湯河原美術館特別展

平松礼二 × 草月 竹と華の饗宴

2022年12月22日(木)～2023年3月27日(月)

いけばな作品は一部展示替えがあります。前期：～2/7(火)後期：2/9(木)～

休館日 毎週水曜日、年末(12/29～31)、1月17日(火)、2月21日(火)


開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで)

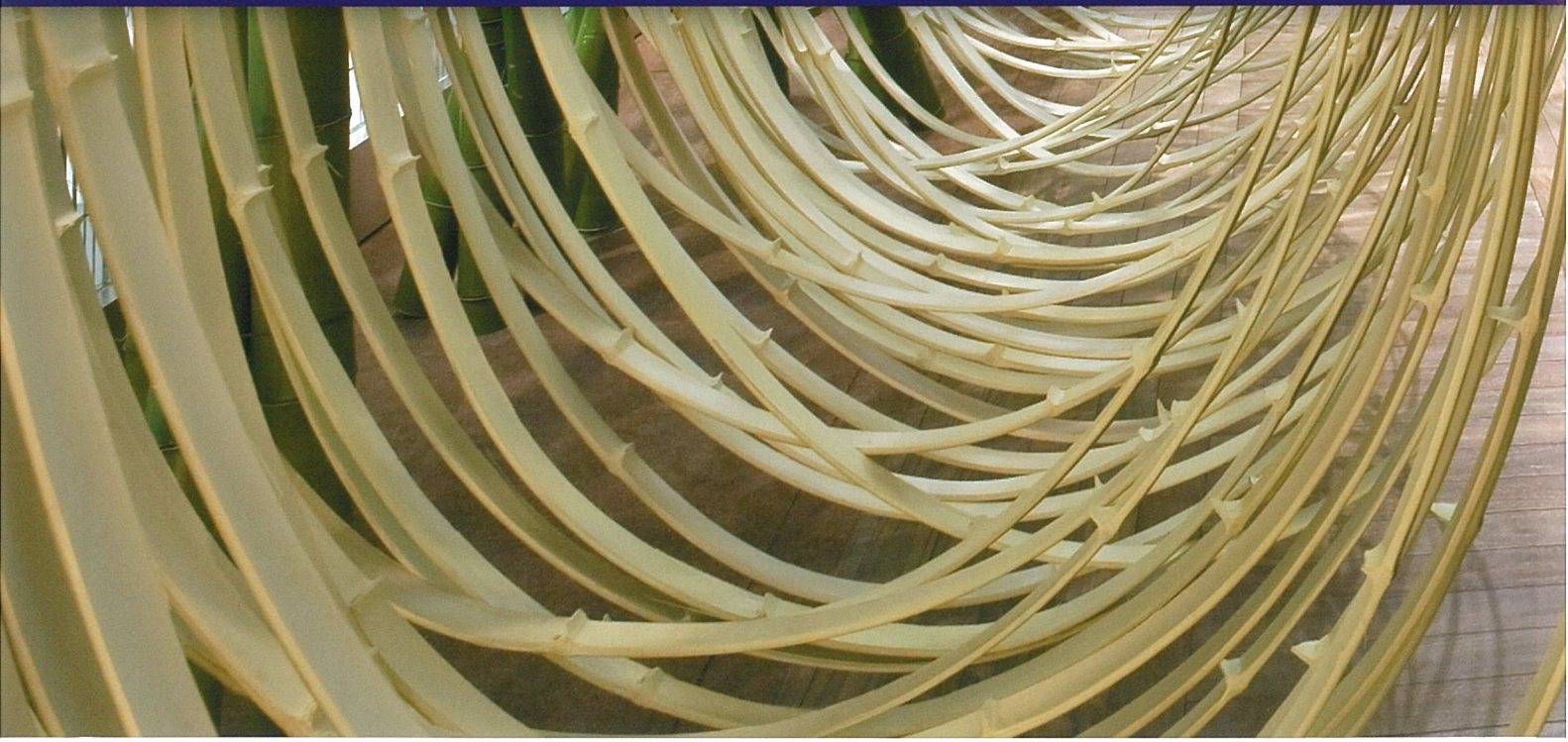
観覧料 一般600円/小・中学生300円 ※常設館展示共通

主催 町立湯河原美術館

協力 一般財団法人草月会・草月文化事業株式会社・草月会神奈川県支部

上：平松礼二「路・ノルマンディの月」(部分) / 下：草月 竹のインスタレーション・イメージ

 町立湯河原美術館



平松礼二×草月 竹と華の饗宴

日本の伝統文化を芸術に昇華したいけばな草月流と、日本画家・平松礼二の作品によるコラボレーション展を開催します。

日本画には花鳥風月というジャンルがあり、古くから四季折々の花が描かれてきました。平松画伯の花に対する原体験は母の生け花教室の教材だったといいます。「花を描くために花を植えて、花を育てるために花を描いてきた」と画家自身が語るように、今では花は欠かせないモチーフとなっています。

華道の三代流派の一つである草月流は、伝統的ないけばなの型にとらわれない自由な作風を特徴としています。近年では公共空間でのインスタレーションや様々なジャンルのアーティストとのコラボレーションなど、いけばなを超えた空間芸術を創造しています。草月流の空間芸術は、青年時代に青龍社で大作による会場芸術の薫陶を受けた平松作品と共通する精神を見出すことができます。

日本画といけばなが竹と華を介して共鳴する空間をお楽しみください。



平松礼二「モネの池・秋冬園」



平松礼二「竹林図」

●いけばな草月流とは？

型どおりにいける従来のいけばなに疑問をもった勅使河原蒼風(1900-1979)によって、1927年に創始された。いける人の個性を映し出す自由な表現を求め、「いつでも、どこでも、だれにでも、そしてどのような素材をつかっていけられる」いけばなをうたっている。第三代家元・勅使河原宏(1927-2001)によって新機軸がうちだされたダイナミックな竹のインスタレーションは、さらに洗練された技術によって現在の草月に引き継がれ、第四代家元・勅使河原茜(1960-)とともに創流100周年を目指し、新たな表現を展開している。



草月アトリエ「越前舞草不老門」

※竹のオブジェ作品はイメージであり、実際の展示とは異なります。



草月会神奈川県支部「SUNRISE」

関連イベント

●平松礼二アトリエ案内&おはなし会

創作について、花に対する思いについてなどなど、平松礼二画伯によるアトリエでのお話し。

日時 1月28日(土)、2月25日(土)、3月25日(土)
各日 14時～ 約1時間

会場 平松礼二公開アトリエ

定員 10名程度 要事前申込(先着順) 参加無料(要観覧券)

※お申し込みは、町立湯河原美術館 Tel.0465-63-7788

●ギャラリートーク

当館学芸員が、みどころを紹介しながら展示室をご案内。

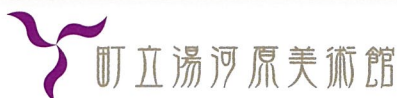
日時 1月15日(日)、2月19日(日)、3月19日(日)
各日 10時30分～ 約40分

会場 町立湯河原美術館展示室

定員 10名程度 申込不要 参加無料(要観覧券)

同時開催

[常設館] 竹内栖鳳、安井曾太郎はじめ、湯河原にゆかりの作家の作品を展示



〒259-0314 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 623-1
TEL 0465-63-7788
URL <https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/site/museum/>



アクセス
◆電車
JR湯河原駅から「不動滝・奥湯河原」行きバスで約12分、「美術館前」下車すぐ/タクシー約8分
◆自動車
国道135号「湯河原駅入口」交差点を入り、道なりに約10分 駐車場有(入館者は無料)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休館日および会期、イベントの開催等が変更になる場合がございます。詳細はお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

